



# あいがも屋通信

## No.159号 三寒四温号

寒すぎた今年の冬、雪解けとともに春の準備が始まりました。まずは水路や田んぼの補修なのです。水路にたまった落ち葉、秋に回収したとはいえ、流れ込んだゴミや、イノシシが転がした石などを除去して水路を補修します。下の写真は水路の一部につららが堆積して氷柱になったところを掘っている様子です。無理せず解けるのを待った方がいいかも・・・



### ひろしま未来農業者ミーティング開催!



広島県内の若い農業者を集めて経営力のUPと経営課題の解決に取り組む新たなネットワークを目指して開催している「ひろしま未来農業者ミーティング～新規就農者歓迎会」を約80名の参加で広島市で開催しました。今回は成長できる環境を整える3つの事と題して「東大卒業農家の右腕になる」の著書で有名な、佐川友彦さんを講師に、農業経営の改善をして成長につなげる技を磨きました。参加した弊社の社員からも早速、改善点を話し合い、導入しました。

### 東城で閉校式 児童、住民に歌や花



151年の歴史を刻んだ庄原市東城町粟田の粟田小151日、閉校式があった。北方に朝倉山を望み、清瀬粟田川を流す高台に立つ学びやに、児童16人や教職員、住民たち計約100人が別れを告げた。

式は体育館であり、森一善校長58が「粟田つ子であることに誇りを持つて」とあいさつ。児童を代表して校旗を返納した6年栗田つ子(12)は「地盤と深くつながれた6年間だった。粟田で学んだことを胸に納めた。粟田小は、教員として1873(明治6)年6月に創設。戦前の修学旅行中に14人が亡くなった落石・神籠湖での遭難事故や1990年の校舍火災を乗り越えてきた。県ニュースクールモデル地域の教育を支え、最後の卒業生3人を含む1425人を送り出した。同小児童は4月から同町内の東城小に通う。PTA会長の金川博博さん(49)は「学校は違っても子どもは粟田に居続ける。地域の皆さんには、子どもを見守り続けてほしい」と話していた。

## 粟田小151年学びやに別れ

## 県北

3/15付け  
中国新聞県北版より

地域の学校であり、わが母校、そして息子たち3人を育み送り出し、19年前からの合鴨農法による食育や田植え太鼓の保存、イモ植えなどで深く関わってきた粟田小学校が151年の歴史に幕を閉じます。

私は7年前の統廃合反対運動にも関わり、地域の方と行政、各機関の協力をいただきながら粟田小学校を盛り上げる活動をしてきましたが、昨年ついに閉校が決定、その後、この学校を見送るお手伝いとして、いよいよ3月15日閉校式及び「ありがとう粟田小学校感謝と思い出を語る会」を開催しました。

